

4. 1 人生まだまだこれからさ (その3)

岸 泰雄

令和3年9月29日、コロナウイルスの年を乗り越え次期時代を切り開く第100代の岸田新総理大臣が決まった。ご苦労様です。

最近一つの事象に出会うと、それとは全然関係ない事が頭に浮かびます。四捨五入すると90才になる私は死ぬ迄どう生きてら良いのかなとか！

生活の概要:朝起きると先ず鏡に向かって舌を出す、未だ生きている。“今日は何を食べようかな！”から始まる。生活の一切を取り仕切っている私は、昼食に家内を連れて毎日モールに行き行って軽食を取ることを日課にしている。そのとき乳母車に乗っている幼児と車椅子に乗っている家内の目線が合うと例外なく見つめられる。何故かなと毎回考えるが、好奇心が強く初めて見る物に引きつけられる結果かなと思うようになった。そう云う面から自分を見つめると、ウォーキングを兼ねた散歩をしていると小さい時に聞いた歌を自然と口ずさんでいる自分に気づく。

朝だ朝だよ朝日が昇る…、勝って来るぞと勇ましく…、おっぺけぽっぺぽっぺ…等々、幼児同様見る物、聞く物、好奇心が強かった小学生時代に聞いた物しか記憶に残らず、その後の物はどんどん消えていくようだ。

生活必須事項:今の私の最大の関心事は、生活を維持するための自動車の運転免許の更新が何時まで出来るかと言うことです。今は88才迄の免許を持っています。

人生100才の到来を予測しているなかで、高齢ドライバーに対する風当たり強い。その理由も分からなくはないが、あまりにも偏りすぎてはないか。高齢者と言えども生活条件、生活環境は総て異なる。私の場合、妻は病気により2001年に身障者になり、身体状況は介護2~4を繰り返している。住んでいる所は、コンビニ迄の距離は2.2キロ、スーパー迄は4キロ、病院までが5キロである。この条件下で妻との生活を維持するのが今の私の責務なのです。そのためには交通手段として自動車は不可欠です。

現在自動車の使用はほぼ毎日、月平均の走行距離は 600km～700km です。

“10 年ぐらい前のことですが大正生まれの先輩から 93 才迄の免許を取得したとの便りが来たことを思い出しました。今は取り敢えずその先輩の実績を目標にして努力するつもりです”。

自動車の安全運転には、視力、聴力を含めた、身体のハード、ソフトの維持管理は欠かせない。それが出来ない人間は即免許を返納すべきであろう

ハードの管理：私の場合、都会と異なり住宅地のすぐ脇に東海道自然歩道があり気晴らしに小分けして一日一時間程度の散策及び朝晩 50 回ずつ計 100 回の腕立て伏せを実施します。

ソフトの管理：第一は家内が寝てる間に、早朝に来る新聞をテーブル一杯に広げて読みながら、ゆっくり朝食を取ります。第二は声を出す練習でイタリア語の音読（ラジオ講座）、覚えているのは Sono Felice(幸せです) だけですが。第三は遊びのある遊びとしてトランプ・ゲーム Microsoft Solitaire Collection で遊んでいます。面白すぎて時間が足りません。

何事も「十把一絡げ」に高齢者の運転は危ないとせず、そこそこ・ほどほどに論じて貰いたいです。

運転中に一番気を付けていることはバック・ミラーを介し、発進は遅く（おそらく停車中スマホを見ている）猛烈なスピードで追いかけてくる後続車には赤信号手前で早めにブレーキを掛けそのスピードを急減速させることです。

“まだまだ運転するぞ！ 100 才まで！”

注：おっぺけぺ、おっぺけぺっぽう、ぺっぽっぽ？

明治 20 年代、演歌師川上音二郎が引きがねを引いた、庶民の気持ちのわからない特権階級及び官僚を風刺した自由民権運動の流行歌の一部、「おっぺけぺ、おっぺけぺっぽう、ぺっぽっぽ」は歌詞の最後の囃子詞。（インターネットで検索）

最後に：“やること、成すこと、へまばかりの毎日です” 御免!